



# あっぷる通信

経営指針  
利用者の目  
線に立った、  
感動を呼ぶサ  
ービスの提供

新規事業の紹介

「訪問リハビリテーション」  
及び訪問看護事業スタート

まずは感謝を

今後の方針は

「在宅支援の強化」



私達アップル学園前は、介護老人保健施設として、施設入所・ショートステイ・通所リハビリ・パワーリハビリなど当施設に泊まり・通っていただいで医療・リハビリ・介護を提供することを中心に行ってきました。その甲斐あって当施設は在宅復帰率（入所されている方の自宅へ帰る割合）50%を達成し、本来の老人保健施設としての役割を果たせる状況となってまいりました。これもひとえに地域で支えて下さった皆様のおかげであり、当法人の理念である「在宅復帰・在宅支援」が職員一人ひとりに浸透してきた結果であると喜んでおります。



今後は「在宅復帰」された方々を少しでも長く「在宅支援」するために、在宅サービスの充実を図ることを平成24年度の法人目標に決めました。

まず訪問介護から

平成15年より訪問介護・福祉用具レンタル事業を開始し、自宅の環境整備から、寝たきりの方のオムツ交換。医療と連携しての看取り介護まで行えるようにしてまいりました。ただそんな中で在宅介護を支えるにはもつと医療との連携が必要と強く感じるようになり、「在宅支援」強化の一環として、「訪問リハビリ」「訪問看護」を開設していくこととなりました。

訪問リハビリとは

自宅で行う機能回復訓練（リハビリテーション）のことです。現在高齢者や脳梗塞などの病気の後遺症で身体能力が低下し、一人でトイレに行ったり、調理をするといった日常生活動作が難しくなってきた方に、自立した生活ができるようにリハビリテーションを行うサービスとなります。特徴としては、作業療法士や言語聴覚士などリハビリの専門職が、自宅で1回40分から60分の個別リハビリを行うことにあります。実際の自宅をみることで、実生活に沿った具体的なリハビリが行え、時間もしつかりとれるので、「リハビリの効果を積み重ねている」と実感していただけると思いますが。



訪問看護とは

病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、看護師等が生活の場へ訪問し、看護ケアを提供し、自立への援助を促し、療養生活を支援するサービスです。特徴としては、寝たきりや、末期がん、胃ろうなど様々な病気や本人の状態に合わせた看護ケアを自宅で行うことができ、また家族に処置の手順などを指導やアドバイスすることもできるので、何より本人だけでなく家族にも安心していただけることです。

本山の希望

私達アップル学園前は、「自宅に帰るための支援」だけでなく、「自宅で住み続けるための支援」を総合的に行うことで、自宅で住み続けたいという皆様の希望に寄り添っていきたく思います。

在宅ケア支援事業部  
統括部長 山田



## 施設行事 (十二月) 保育園児を迎えて クリスマス会

平成二四年十二月十二日(水) 近隣の保育園児約二十名を招いて入所施設行事「クリスマス会」を開催しました。園児たちは練習した太鼓演奏や歌をご利用者にプレゼント。そして、手遊びをご利用者と一緒に楽しんだあと、サンタクロースが登場し、園児一人ひとりにクリスマスプレゼントを渡しました。



園児たちとの楽しい交流ができた。ご利用者も笑顔で喜んでおられました。

## 施設行事 (一月) お餅つき大会

平成二五年一月六日(日) 入所施設行事「お餅つき大会」を開催し、大きな掛け声と一緒にお餅つきが始まりました。



お餅をつく職員

ご利用者も職員と一緒に、お餅をつき、ついたお餅をさつそく、お雑煮やぜんざいで美味しくいただきました。また食事を楽しんでいるとき、手作りの獅子舞が登場し、会場を盛り上げ、手を合わせているご利用者をガブリ、一年のご多幸を祈念していました。

## 施設行事 (二月) 節分会

平成二五年二月三日(日) 入所施設行事「節分会」を開催しました。

まず職員が人形劇「節分の鬼」を披露し、そのあと、職員が扮した赤鬼と青鬼が登場。ご利用者は「鬼は外」と豆を投げ、節分を楽しみました。



人形劇を演じ、それを観賞するご利用者

## 施設トピックス 佐保短期大学に招かれ講演

平成二五年二月十一日(月) 奈良佐保短期大学生活未来科による卒業研究発表会に、管理栄養士の森山廣江が招かれました。

講演を行いました。



## 施設トピックス 登美ヶ丘北中による 吹奏楽演奏会

平成二五年二月一六日(土) 登美ヶ丘北中学校吹奏楽部の生徒約四十名が来所し、通所フロアにおいて演奏会を開催しました。生で聞く迫力ある演奏を、ご利用者も楽しんでいました。



## 施設トピックス 中学生職場体験を まとめた冊子届く

二名中学校、登美ヶ丘北中学校より、昨年十一月の職場体験をまとめた冊子が届きました。

二名中学校の生徒三名は、敬意を持って対応する「敬」、しつかりと聞く「聞」、笑顔を大切に「笑」の一字で職場体験を表現していました。



## 法人トピックス 二五年委員会活動スタート

平成二五年各委員会の委員が新たに任命され、教育、事故防止、防災、給食などの二五年委員会活動がスタートしました。

## ご報告とお知らせ

### 【ご報告】

#### ◎アップル忘年会開催

平成二四年十二月二〇日に約百二十名の職員が参加し、アップル忘年会を行いました。忘年会では職員表彰、プレゼントの抽選、職員出し物があり、特に職員出し物は、大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。

#### ◎中堅職員研修、及び中途採用二年目研修実施

平成二五年一月二八日に「中堅職員研修Ⅰ」を、二月二五日に「中途採用二年目研修」を実施。

#### ◎勉強会実施

平成二四年十二月十八日に「事故防止」勉強会を、二五年一月十五日に「事例を通して身体拘束を考える」勉強会を、二月二二日に「高齢者の加齢変化について」勉強会を実施。

### 【お知らせ】

#### ◎入所行事

三月 歌と演奏会

四月 お花見遠足

#### ◎通所リハビリ

四月 お花見ドライブ

#### ◎パワーリハビリ

四月 ハイキング

#### ◎小規模多機能行事

三月 ひな祭り

四月 春の外出

五月 春の園芸

職員あいさつ

訪問リハビリテーション

古川直道さん (作業療法士)



昨年12月31日に第1子(長男)誕生。新人パパさんです。

訪問リハビリテーションの古川直道です。訪問リハビリは、身体面や精神面、在宅で困る動作や介助方法など、様々な状況に臨機応変に対応できるサービスマスターです。一生懸命頑張りますので、これから宜しくお願い致します。

田中ともえさん (言語聴覚士)



明るい性格です。お話好きですので、気軽に声をかけて下さい。

昨年十月より、言語の訪問リハビリを始めました。家庭での実際の生活の中での課題点を、すぐにリハビリに活かせることにやりがいを感じます。「待ってましたよ」の利用者様の一言が、励みになります。

訪問看護

上田正さん (看護師)



今までは病院勤務で、初めて介護の世界にきました。趣味はうどん屋巡りです。

この度、私共の法人でも訪問看護を開設することになりました。お住まいを訪問し、ご自宅で療養生活をされている方に看護や医療処置を提供するサービスです。他職種とチームを組んで、病気を抱えながらも、住み慣れた我が家で暮らしたいという皆様の想いを実現できる限り支援してまいります。宜しくお願いします。



新連載 認知症と向き合う 医師の視点から

第四回 「住み慣れた地域で暮らし続けるために」

去年、厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチームから「今後の認知症施策の方向性について」が発表されました。

認知症施策の反省

その中で、まず「かつて私たちは認知症を何も分からなくなる病気と考え、徘徊や大声を出すなどの症状だけに目を向け、認知症の人の訴えを理解しようとするどころか、多くの場合、認知症の人を疎んじたり、拘束するなど、不当な扱いをしてきた」と、これまでの認知症施策の反省を行っています。

認知症の人を「人」として理解する

すなわち、認知症を症状としてではなく、認知症の人を「人」として理解することが必要と訴えています。その為には「認知症になっ

ても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指すことも大切です。

認知症の人はこれからますます増えていくでしょうし、私たち自身も認知症になる当事者かもしれないと思えば、認知症の人に対する接し方や見方が変わってくるはずですよ。

認知症になっても「人」としての尊厳は失われない

人は認知症になっても「人」としての尊厳は失われません。家族の一員であり、社会の一員であり、最後まで人生を全うする権利を持っています。

認知症の人と共に住みやすい社会を

私たち全てが認知症のことをよく理解し、認知症の人と共に住みやすい社会を築いていきましょう。

(医師 北神敬司)



新企画

職員自主活動の紹介 (フットサル)

皆さんはフットサルをご存知でしょうか。キングカズこと三浦知良さんが、念願のW杯(ワールドカップ)出場の為、フットサル日本代表に選出されたことで有名になりました。たとえて言えば、テニスコートのような広さでサッカーを楽しむような感じですよ。

当施設でも、フットサルが好きな職員が集まり、また職員の子どもや、その

友達も加わり、高校生や小学生を交えて行っています。仕事が終わってから集まり一九時〜二一時の二時間、汗を流しています。

様々な世代と交流することで、自分も明日からもっと頑張ろうという気持ちになります。

特に小学生からは「点をとるぞ」「攻めるぞ」という前に行く気持ちを思い出させてくれます。



フットサルのメンバー。前列は小学生、後列中央が井上さん (2/1村田事務長撮影)

いくつになっても「前に進む」という気持ちは大切だと感じています。

ご利用者さまにも僕たちの元気を感じていただきながら、少しでも「前に進む」という気持ちを持って、リハビリに励んでいただければと思います。

(介護福祉士 井上修一)

◎アップルだより冬号より (広報委員作成アップル壁新聞の抜粋です。)

今年の干支は巳年です

巳年の由来

『巳』の本来の読みは、『し』。源字は頭と体ができかけた胎児を描いたもので、子宮が胎児をつつむさまを表す『包』の中と同じ。

十二支の『巳』は、植物に種子ができれば始める時期と考えられる。

これを『へび』としたのは、無学の庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を当てたものであるが、順番や選ばれた理由は定かではない。

お正月遊び

羽根つき

中国で羽根に硬貨をつけたものを蹴る遊びがあり、これが室町時代に伝来しました。やがて羽根つきで厄祓いできると信じられるようになり、江戸時代には、年末になると邪気を祓うための羽子板を贈るようになり、さらには、羽根に使われているムクロジの実を『無患子』と書き、子供が患わないという魔除けに通じるものとして、女の子の初正月に羽子板を贈る風習が生まれます。

凧あげ



『古来中国では、凧あげは占いや戦いの道具の一つでした。日本には平安時代に貴族の遊

戯時代として入りましただが、戦国時代には、敵陣まで距離を測ったり、遠方へ放つ兵器として活用されてきた。うと男の子の誕生祝いなどに民の遊びとして広がり、季節に空に向けた昔から「立春の空に凧」の言葉が、ひとつとあがれ、養生から、立春に定着したのです。



編・集・後・記

時の経つのは早いもので、私がアップルに来て五年半が経過としていきます。またニューズでも報じられていたように東北の津波から慣れは怖いもので、まだ危険感も弱くなっています。学んだりと、振り返って必要を強く感じます。

私は「守・破・離」という言葉が好きですが、私にとつてこの五年は「守」の段階で、これから五年は「破」の段階にしなければいけません。今までのやり方を少しづつ破っていくつもりで、常に危機感を持って行きたいと思っています。(平岡)